

■ 防振架台取付要領 <CCB-NSFO-01>

当社防振架台をご採用いただきまして有難うございます。
この説明書をお読みくだされまして効果的にお使い下さい。

■ 次の事項を確認して下さい。

- ・ 銘板の型式名はご注文の品と合っていますか。
- ・ 防振架台に破損箇所はありませんか。
- ・ 付属品は揃っていますか。＊
- (ポリ袋入りで架台にテープ止めしてあります。)

付属品一覧＊

1, 機器取付用ブラケット	4ヶ
2, 機器取付用ボルト	4本
機器取付用ナット	8ヶ
機器取付用平座金	4ヶ
機器取付用角座金	4ヶ

注：基礎ボルトは付属しておりません。お客様にて下記推奨品相当のボルトをご用意下さい。又、後打ち作業の場合には下記アンカーボルトをご使用下さい。

(基礎ボルト推奨品：JIS-B-1178, L型)

●短期許容引抜荷重(N)

ボルト径	コングリート厚さ(mm)				埋込長さ(mm)
d(呼称)	120	150	180	200	
M12	6570	6570	6570	6570	60
ボルトの埋込長さ(1)の限度(mm)	100以下	120以下	160以下	180以下	

＊コングリート基礎強度1760(N)/cm²とします。

■ 基礎について

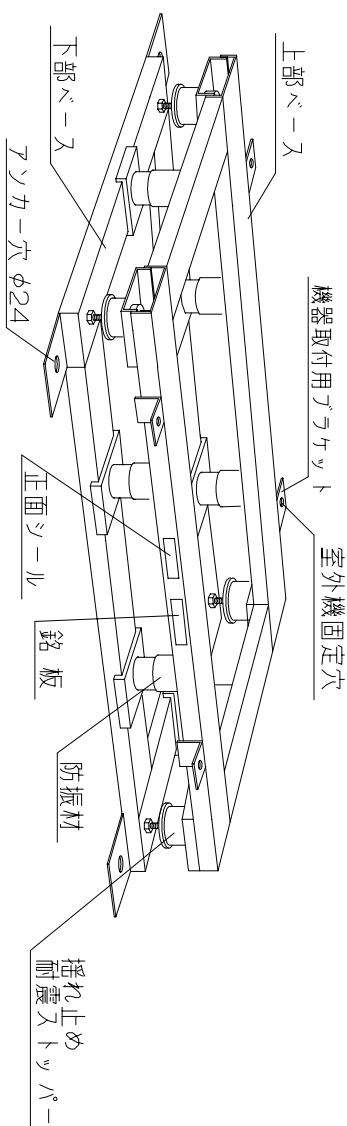
＊アンカーボルトサイズは12.7mmです。

- ・ 防振架台を載せる基礎上面は水平かつ平滑に仕上げて下さい。尚、架台設置後傾きがある場合には架台下ベース、基礎の間へスベーサー等で水平レベルを出して下さい。

・ 基礎には必ず配筋を行い、アンカーボルトは耐震基準に依りて埋設して下さい。

(アンカーボルトの立上げ高さは承認図にて確認して下さい。)

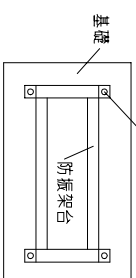
・ 機器の周囲は、サービス・スペースを500mm以上とるようにして下さい。(サービス・スペースがとれない場合は架台設置の前に一度機器本体をのせて水平調整をして下さい。)



取付け順序

1. 防振架台の設置

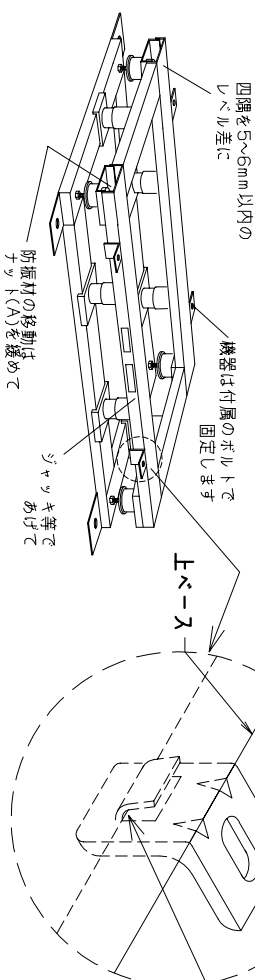
- ・ 架台の上ベースに機器正面側ラベルの指示がしてあります。据付け方向を確認して下さい。
- ・ 床面が傾斜している場合はライナー等で水平を出して下さい。
- ・ 基礎ボルトは室外機を乗せる前に施工して下さい。
- ・ (1) あと施工アンカーを使う施工
防振架台を据付け位置に置き、基礎上にアンカー位置をマーキングした後、あと施工アンカーを埋め込んで固定して下さい。



- (2) 基礎ボルトの場合
先施工の基礎ボルトを用いる場合は、納入仕様書のボルト位置を確認し、基礎ボルトを固着した後、防振架台を据付けて下さい。

■ 室外機の取付け

室外機を防振架台に左右均等に合わせて載せ、付属の機器取付ブラケットを室外機脚に合わせボルトナットで固定して下さい。(右の注記を確認して下さい。)

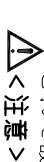


■ 水平レベルの確認

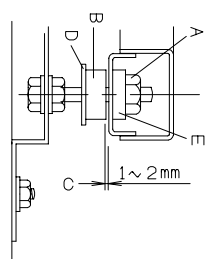
- 防振架台の四隅の高さを計って5～6mmの差でしたらほぼ水平です。もしその差が大きい場合には次の手順で水平レベルを調整して下さい。
- (1) ストップパーボルトのナット(A)を十分緩めて下さい。
- (2) ミニジャッキ等を上下架台の間に入れ、架台を持ち上げて下さい。
- (3) 防振材を傾いている側に移動させてジャッキ等を外します。
- (4) 水平レベルが出ましたら緩めたナット(A)をスパン等でゴム(E)に接触するまで軽く締めして下さい。

■ 揺れ止め耐震ストップパーの調整

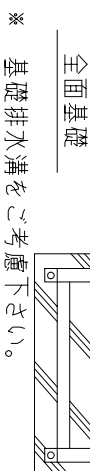
- ・ 揺れ止めゴム(B)を回して隙間Cを1～2mmにして下さい。
- ・ 揺れ止めゴム(B)を押さえながらロック座金(D)を回して締めて下さい。
- ・ ナット(A)をスパン等でゴム(E)に軽く接触するまで締めて下さい。
- これで設置は終了です。



△<注意>
隙間Cの調整は必ず行って下さい。



<注意>
取付ブラケットを水平にし、引掛け部が根元まで確実に入った状態で、機器取付ボルトを締めて下さい。取付が不十分ですと、機器が転倒する恐れがあります。



＊ 基礎排水溝をご考慮下さい。